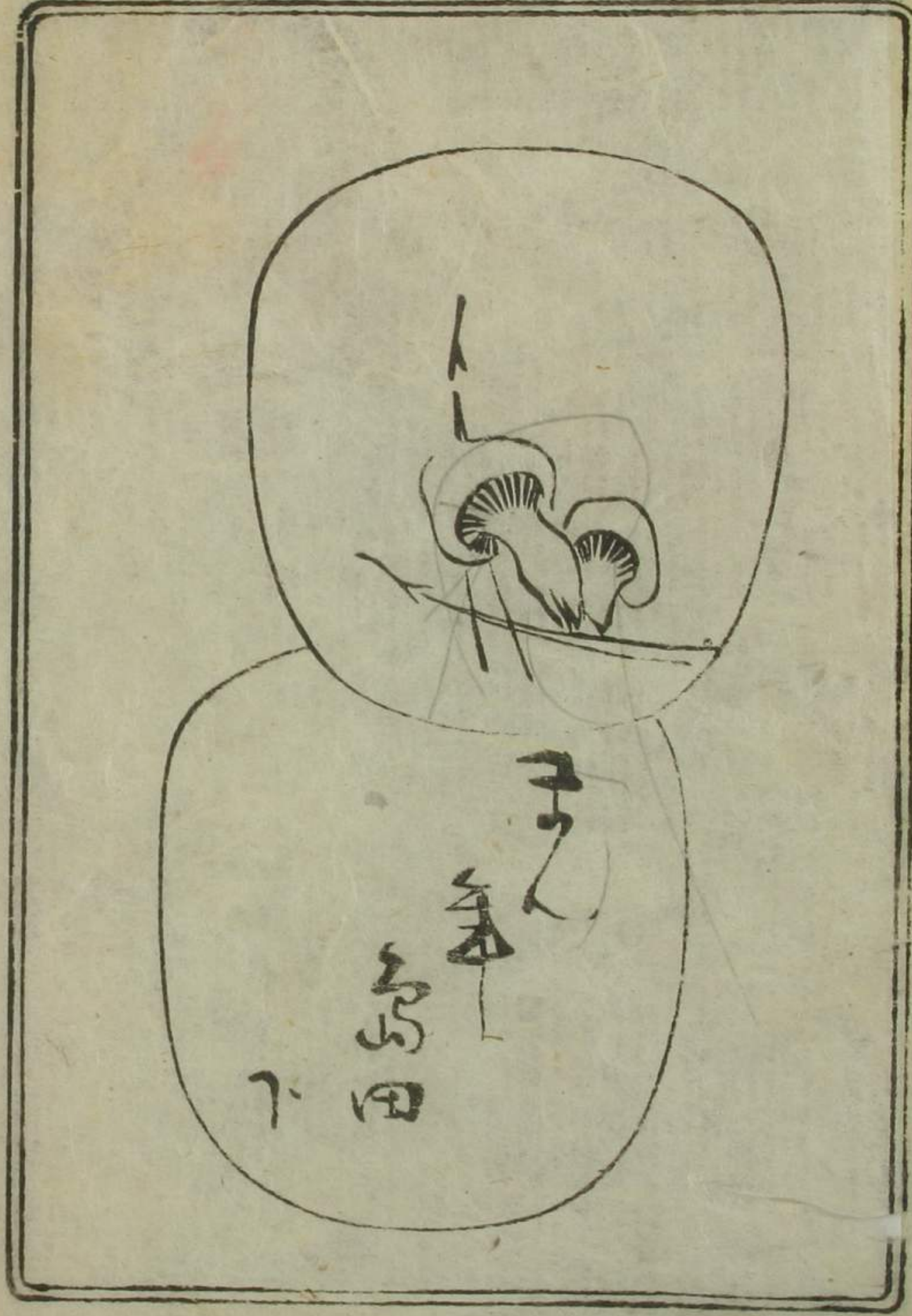


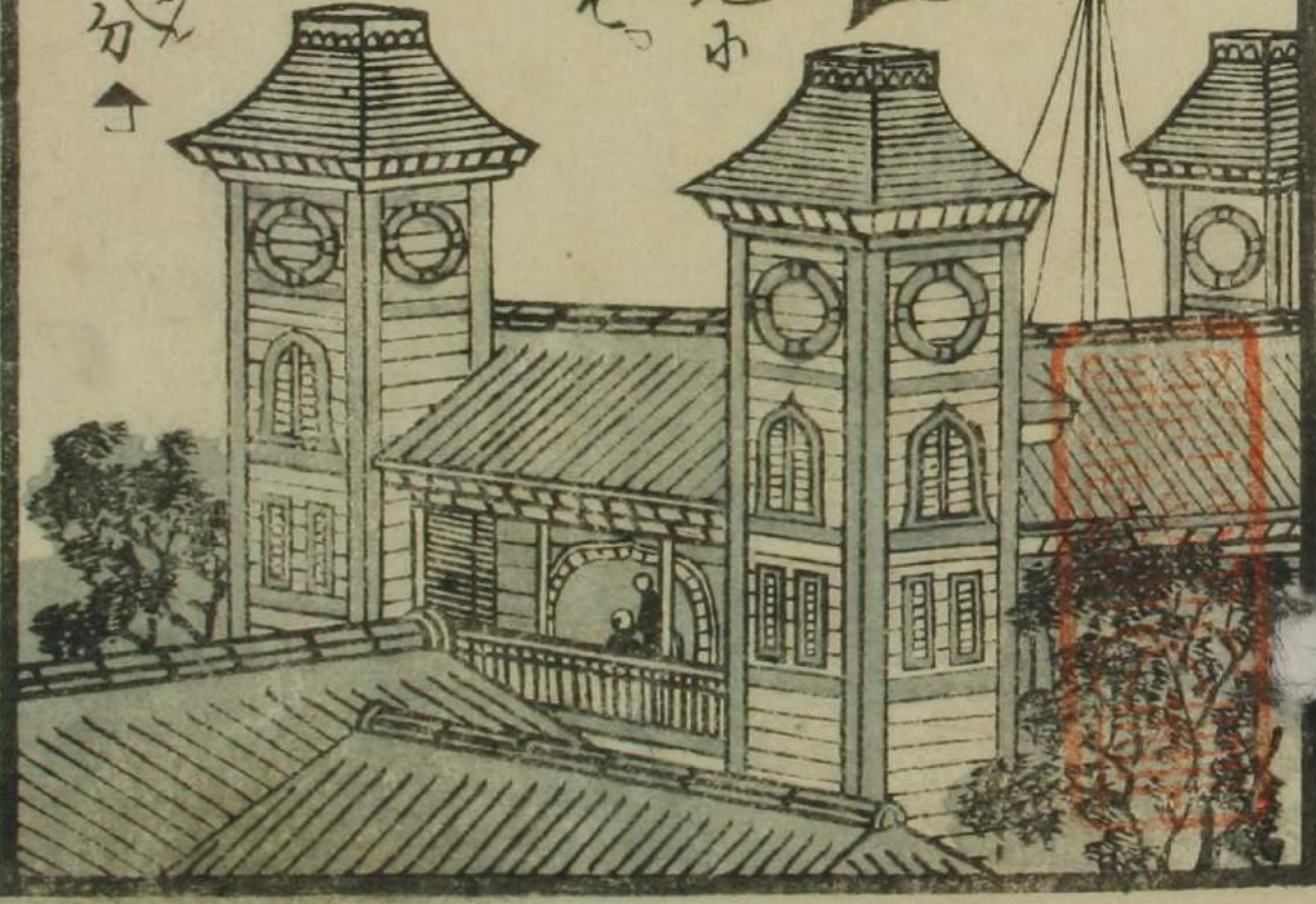


へ13  
3017  
8



一 陸

のめる春此万年嶋田小初  
元結をむまびし  
綴り合せるいろは文字  
小因やありけん這冬ハ四十  
七字の神奈川ある異人居留の地小  
遊び次編の草稿後ろりゆだ  
馬車で乗来る書房の  
口上他の飛用ダ太田町とそ  
辨天小路べんくと引  
淀ろるよと田町と何分



田町と何分



賴名屋  
衛兵得



毒婦  
阿百

八  
八

八  
八











月夜に  
 燈籠の光  
 照らす  
 庭の隅々  
 花の影  
 散らばる  
 風は静かに  
 吹く  
 空は深く  
 星の光  
 見ゆる  
 心は静かに  
 眠る  
 夢の境  
 遠くへ  
 行く  
 涙の跡  
 乾かす  
 手紙の  
 折片  
 懐かし  
 思ふ  
 昔の  
 日々  
 懐かし  
 思ふ  
 昔の  
 日々







そのまのさかろひ  
それぐがれど  
せうやくとま  
とらうちちらむ  
まがらちちらむ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ

あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ

あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ

あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ  
あつり七川さ  
と入るやうな  
まのさかろひ



あはれなる世なり  
これぞやうらやま  
はあはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり  
あはれなる世なり

あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを



あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを

春水作 國貞画



あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを

あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを  
あはれおのけの甲かき  
くまのつとをまを





百七十八

そのあひしごうかろうりまで  
まのんでらうゆきよまきと  
つるしてやうんしのこまをか  
ててもちあつちをせんせ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ

あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ



厚作

あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ

あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ  
あつちのちりごまをもちつて  
いへ









此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、  
 一人の男が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、お祈りをした。すると、お祈りした  
 通りに、病が癒え、男は生き返った。この事  
 が、村に伝わり、皆が信じた。

又、ある時、ある村に、一人の女が、病に罹り、  
 死にかけた。その時、村の長老が、お祈りをした。  
 すると、お祈りした通りに、病が癒え、女は  
 生き返った。この事が、村に伝わり、皆が信じた。

此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、  
 一人の男が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、お祈りをした。すると、お祈りした  
 通りに、病が癒え、男は生き返った。この事  
 が、村に伝わり、皆が信じた。



此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、  
 一人の男が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、お祈りをした。すると、お祈りした  
 通りに、病が癒え、男は生き返った。この事  
 が、村に伝わり、皆が信じた。

又、ある時、ある村に、一人の女が、病に罹り、  
 死にかけた。その時、村の長老が、お祈りをした。  
 すると、お祈りした通りに、病が癒え、女は  
 生き返った。この事が、村に伝わり、皆が信じた。

此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、  
 一人の男が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、お祈りをした。すると、お祈りした  
 通りに、病が癒え、男は生き返った。この事  
 が、村に伝わり、皆が信じた。











春水作

國貞画



朝鮮牛肉丸  
 大包金三朱  
 中包金一朱  
 小包銀一朱  
 此二品の補ひ合せの  
 をまじらめさみれは  
 きよしやくの人老小用  
 ひてよ  
 下巻と見えたり  
 對馬 漆崎氏製

ハイ米

甘きふ  
 めぞお百のよういの

ふゆのそと  
 あくらの人の

あらんあ  
 ろんあを  
 ろんあを  
 ろんあを

ついでせきまのり  
 ちよとたのね  
 ろんあを

あまのり  
 ついでせきまのり

ふゆのそと  
 あくらの人の

のちの  
 のちの

あまのり  
 ついでせきまのり

あまのり  
 ついでせきまのり

